

平成 24 年度放射線安全取扱部会年次大会 (第 53 回放射線管理研修会) アンケート調査のまとめ

平成 24 年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会

平成 24 年 11 月 8 日(木)、9 日(金)の 2 日間にわたり、平成 24 年度放射線安全取扱部会年次大会(第 53 回放射線管理研修会)が、松山市総合コミュニティセンター(愛媛県)で開催された。実行委員会は年次大会をより良いものとするため、参加者全員にアンケート調査を行っており、ここにその集計結果を報告する。アンケートは一般参加者を除いた参加者総数 314 名のうち 183 名から回答を得た。

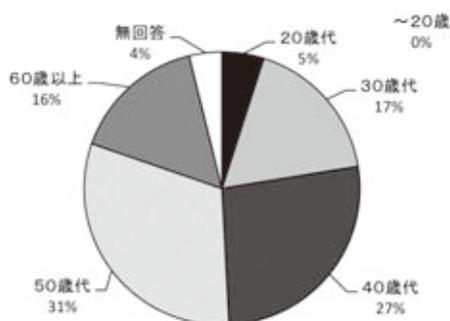


図1 参加者の年齢の割合

1 参加者について

1-1 性別・年齢

性別は、“男性” 144 名 (79%)、“女性” 26 名 (14%)、“無回答” 13 名 (7%) であった。

年齢構成について結果を図 1 に示す。“20 歳未満” 0 名 (0%)、“20 歳代” 9 名 (5%)、“30 歳代” 32 名 (17%)、“40 歳代” 49 名 (27%)、“50 歳代” 57 名 (31%)、“60 歳以上” 29 名 (16%)、無回答 7 名 (4%) であった。回答者の約 8 割が男性で、約 6 割が 40 及び 50 歳代であった。

1-2 所有免状・身分等について

所有免状及び身分等については、それぞれで複数回答があり、加算して集計した。

参加者の所有免状は、“第 1 種” 147 名 (72%)、“第 2 種” 16 名 (8%)、“第 3 種” 0 名 (0%)、“医師、歯科医師” 0 名 (0%)、“薬剤師” 17 名 (8%)、“なし” 12 名 (6%)、“無回答” 11 名 (5%) であった。

身分等については、“事業所長” 2 名 (1%)、“管理職” 41 名 (22%)、“一般職” 61 名 (33%)、“教育・研究職” 54 名 (29%)、“医療従事者” 8 名 (4%)、“その他” 8 名 (4%)、“無回答” 11 名 (6%) であった。

1-3 主任者選任、アイソトープ協会会員、放射線安全取扱部会会員

主任者の選任状況は、“選任” 122 名 (67%)、“非選任” 46 名 (25%)、“無回答” 15 名 (8%) であった。

日本アイソトープ協会への入会状況は“会員” 126 名 (69%)、“非会員” 44 名 (24%)、“無回答” 13 名 (7%) であった。

部会員については、“会員” 98 名 (54%)、“非会員” 68 人 (37%)、“無回答” 17 名 (9%) であった。

日本アイソトープ協会の公益法人化に伴い、部会名が「放射線安全取扱部会」に変更とな

主任者 コーナー

り、本大会では新しい部会名での年次大会であった。

1-4 参加頻度について

参加頻度は、“毎年”104名(57%)，“隔年”11名(6%)，“時々”32名(17%)，“初めて”24名(13%)，“無回答”12名(7%)であった。

2 参加者の所属事業所について

2-1 事業内容

結果を図2(A)に示す。複数回答があり、それぞれに加算した。

所属事業所では、“医療機関”8名(4%)，“教育機関”82名(45%)，“研究機関”38名(21%)，“民間企業”49名(27%)，“無回答”9名(5%)であった。

2-2 使用形態

複数回答は、それぞれに加算した。

使用形態は、“許可使用”159名(87%)，“届出使用”14名(8%)，“販売業”7名(4%)，“賃貸業”0名(0%)，“廃棄業”3名(2%)，“放射性医薬品製造”3名(2%)，“機器メーカー”3名(2%)，“使用していない”4名(2%)，“無回答”12名(7%)であった。

2-3 施設

結果を図2(B)に示す。複数回答は、それぞれに加算した。

結果として、“非密封RI”136名(74%)，“発生装置”42名(23%)，“密封RI”64名(35%)，“設計認証機器”16名(9%)，“非破壊検査”0名(0%)，“無回答”18名(10%)であった。

2-4 所在地

“北海道”4名(2%)，“東北”12名(7%)，“関東”55名(30%)，“中部”22名(12%)，“近畿”35名(19%)，“中国・四国”29名(16%)，“九州”17名(9%)，“無回答”9名(5%)であった。

2-5 放射線業務従事者数

“0人”0名(0%)，“20人以下”43名(23%)，“21~40人”22名(12%)，“41~60人”22名(12%)，“61~80人”4名(2%)，“81~100人”17名(9%)，“101~200人”14名(8%)，“201~300人”14名(8%)，“301~500人”9名(5%)，“501~1000人”4名(2%)，“1001人~”3名(2%)，“無回答”31名(17%)であった。

2-6 選任主任者数

“0人”59名(32%)，“1人”60名(33%)，“2人”21名(11%)，“3人”8名(4%)，“4人”2名(1%)，“5人”1名(1%)，“6人”1名(1%)，“7人から10人”0名(0%)，“11人以上”1名(1%)，“無回答”30名(16%)

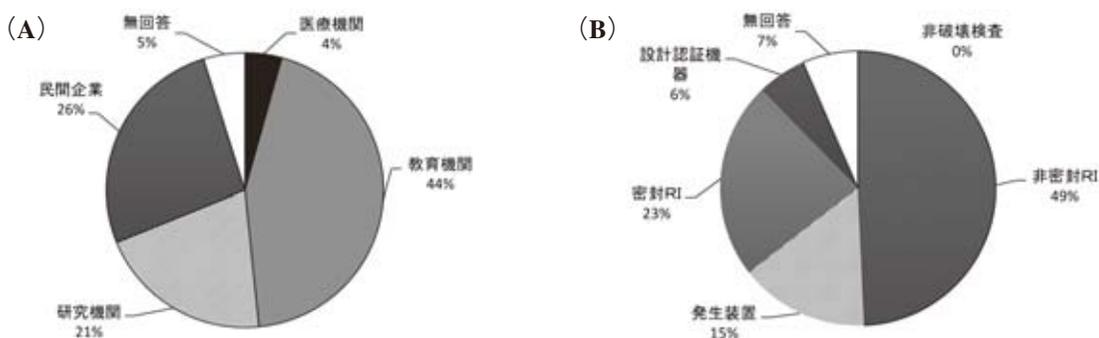


図2 参加者の所属事業所の事業内容 (A) と施設 (B) の割合

であった。

3 今回の年次大会について

プログラムごとに5段階（5点＝良い，1点＝悪い）で評価を記載してもらった。有効回答数は，評価者の数とし（「不参加」や「無回答」の数は含めていない），有効回答率はアンケート総数（183名）に対する割合とした。結果を図3に示す。

プログラム全体の評価（有効回答率87%）の評価点は「3.9」であり，5点と4点の評価が7割と比較的高い評価であった。プログラムも

「よくねられていた」「まとまっていた」「内容も今後にかせるものであった」など，好評であった。一方で「レーザーポインタが見にくい」や「時間通りに進行してほしい」など，運営側として反省すべき点も挙げられていた。

3-1 部会総会

有効回答率は84%で，評価点は「3.4点」であった。

「活動の様子が分かってよかった」「事業所で今後どのような活動を進めればよいか参考になった」とのコメントの一方で内容の希薄さを指摘するコメントも見られた。「会場からの意見

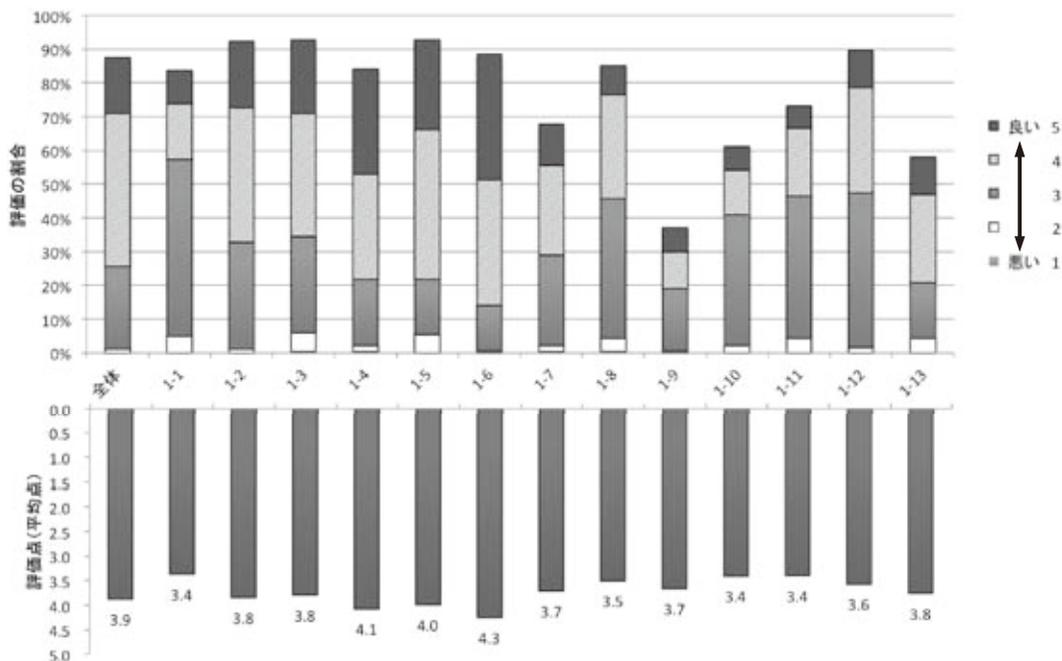


図3 年次大会のプログラムごとの評価の割合（上図）と評価点（平均点，下図）
 （評価の割合では，「無回答」，「不参加」は集計していない）
 プログラム番号について 全体，1-1：部会総会，1-2：特別講演Ⅰ，1-3：シンポジウムⅠ，パネルディスカッションⅠ，1-4：特別講演Ⅱ，1-5：特別講演Ⅲ，1-6：シンポジウムⅡ，パネルディスカッションⅡ，1-7：シンポジウムⅢ，パネルディスカッションⅢ，1-8：ポスター発表，1-9：相談コーナー，1-10：書籍コーナー，1-11：機器展示，1-12：要旨集，1-13：交流会

がなく、少し残念でした」とのコメントもあった。

3-2 特別講演Ⅰ（放射性同位元素等に係る最近の傾向—法令改正など）

有効回答率は92%と高く、参加者の期待の高さが伺える結果となった。

今回、放射線関連が文部科学省から原子力規制委員会に移管されることもあり、コメントについても「法令と事例を挙げて分かりやすかった」「法令改正の内容が早めに分かったので早めに準備できる」「HPや通達だけではよく分からなかった点が解説されており、大変有用であった」と講演の内容や説明の分かりやすさにおいて好評であった。中には更なる情報を望む意見も複数あり、参加者の期待度の高さが伺えた。

3-3 シンポジウムⅠ、パネルディスカッションⅠ（福島第一原子力発電所事故からの復興）

有効回答率は93%と高く、関心の高さが伺える結果となった。

「見えないところで、様々な取り組みを行っていることを知りました」「いろんな視点から復興に携わっている方々の意見、現場での努力が聞いて良かった」など、コメントからもその関心の高さが伺えた。中には「パネル討論の時間をもう少しとった方が良いと思う」「昨年からの進みぐあい、主任者との関わりを再考する機会として役に立った」「復興に対して、主任者としての役割について理解が深まった」「主任者部会としてどう取り組めるかの展望が欲しい。個人ボランティアに頼っている状況では……」などの意見も見られた。評価点も「3.8点」と高いものであった。

3-4 特別講演Ⅱ（“念ずれば花ひらく”の詩人坂村真民の人生と詩の魅力について）

有効回答率は84%であった。評価点は「4.1

点」であった。

「真民の生き様に感動する事が出来た。今回参加して充実したときを味わう事が出来た事を感謝します!」「選り抜かれた言葉の力というものを感じた。どう語るか、どう記すか、もっと真剣に考えねばならないと思われた」「改めて気付かされる視点の深さが心地よかった。松山でなければ聞けない話で、今後もこのような企画を続けて欲しい」といったコメントが数多く見られた。

3-5 特別講演Ⅲ（放射線教育の必要性について）

有効回答率は93%と高いものであった。

コメントとしては、「含蓄のある内容で大変参考になった」「教育の重要性、メッセージを込めて理解させることの必要性を感じた」「バックエンド技術の必要性について再認識できた」など、好評なコメントが多く見られた。話の分かりやすさを示す意見も見られ、中には「一般の方にも公開できる内容だったのではないのでしょうか」といった意見も見られた。時間が限られたこともあるが、もっと長時間を望む意見も複数見られた。

3-6 シンポジウムⅡ、パネルディスカッションⅡ（一般の方への放射線教育）

有効回答率は89%と高いものであり、その関心の高さが伺えるものであった。

コメントとしては、「事業所内教育にも応用できるかもしれない」「説明、教育のあり方に、非常に参考になる工夫をされていた」などのコメントが得られた。講演者が具体例を挙げて説明されたこともあり、「参考にできる」「役に立つ情報が得られた」という意見が多かったと思われる。中には「パネルディスカッションの時間、内容が不足している」「これからの取り組みに期待したい」といったコメントも見られ、先の特別講演Ⅲの結果とあわせて、放射線教育

に対する関心の高さが伺えた。

3-7 シンポジウムⅢ (分子イメージング)

有効回答率は68%であった。近年分子イメージングの発展は目覚ましいものがあるが、その特殊性もありこれが回答率の低さにつながったのかもしれない。

コメントとしては、「聞いてみたい分野でした」「導入の可能性を考える上で多めに参考になった」「今後のRI施設において重要な話であったと思う」と好評な意見があった。その反面、「理解できにくかったです」「難しかった」といった意見も見られた。今後の可能性や現実的な部分(費用や管理)の話を望む意見も見られた。

3-8 ポスター発表

有効回答率は85%であった。

会場の狭さや発表件数の少なさを指摘する意見があり、発表を増やす行動を指摘する意見があった。中にはポスターを見る時間をしっかり取ってほしいという意見も見られた。発表の内容は「バラエティに富んでいた」「参考になった」などの意見も見られた。

3-9 相談コーナー

有効回答率は37%であった。

「良い意見をいただいた」という意見があり、中には「相談コーナーがあるので参加する年もある」といった意見があった。実際直接(話をして)相談できるというのは頼もしく、その必要性を伺えるものであった。

3-10 書籍コーナー

有効回答率は61%であり、参加者の6割が立ち寄っていた。

コメントとしては、種類を増やしてほしいとの意見があった。本大会では、放射線教育をテーマの1つとして選んだが、その助けとなる書籍も欲しいという意見があった。

3-11 機器展示

有効回答率は73%と、参加者の7割が立ち寄っていた。

「新しい商品を見ることができて良かった」「情報収集ができた」といったコメントが見られた。その反面、「ゆっくり見る時間が欲しい」「会場がもう少し明るい方が良い」といったコメントが見られた。出展数や資料に関するコメントもあり、このようなコメントがあることも、その関心や期待度を表していると感じられる。

3-12 要旨集

有効回答率は90%であった。

「後に見直すにも良い資料だと思う」「教育用の資料として活用したい」といった意見が見られた。内容については、「講演のスライドを入れてほしい」「時系列にしてほしい」「CD-RやDVD-Rで電子版も欲しい」といった意見が見られた。著作権や版権などの問題で難しい点もあるが、資料価値として高い評価をしてもらっている印象があり、より良い要旨集を作るために参考にできればと思う。

3-13 交流会

有効回答率は58%で、評価点は3.8点だった。

「他の大学・企業の人と交流できて良かった」「沢山の人と交流できて良かった」「奇術、軽音楽も良かった」「これだけでも来た甲斐がありました」と好評な意見をいただいた。料理についても十分な量があったとのコメントをいただいた。交流会は、多数の人と交流を深めることを主な目的とする人も多く、量を含めた料理の内容や催し物(アトラクション)など、内容について検討すべき意見もいただいた。今回、開始時の段取りに不備な部分が多かった点は、実行委員会として反省すべき部分であろうと思う。

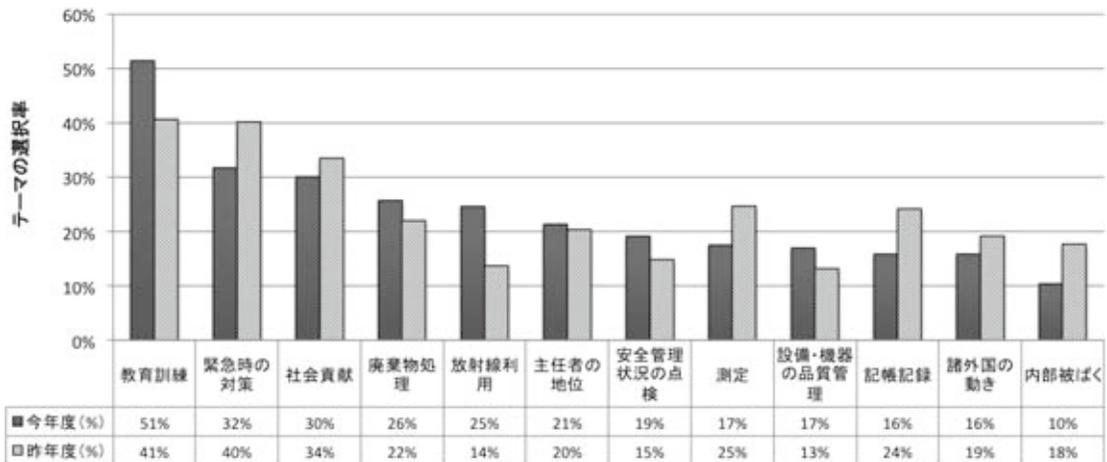


図4 放射線安全取扱部会の活動について、興味があるテーマ (10%以上のみ掲載)

4 放射線安全取扱部会の活動について

4-1 特に興味のあるテーマ、今後の研修会で取り上げてほしいテーマ

10%以上の結果について、昨年度と比較したものを図4に示す。最も多かったテーマとして「教育訓練 51% (94件)」が挙げられた。続いて「緊急時の対策 32% (58件)」「社会貢献 30% (55件)」「廃棄物処理 26% (47件)」「放射線利用 25% (45件)」と続いた。上位3テーマは昨年と同様であった。

その他の自由記述について表1に示す。「放射線教育」「放射化物の管理」「低線量研究の現状と必要なこと」「法令関係」があった。

4-2 各支部の教育訓練講習会

開催頻度では、「適当 80% (146名)」「少ない 7% (12名)」であった。コメントとしては「秋の新規が少ない」「10~12月に諸団体主催の講習が多いので、時期を考慮してほしい」と、秋期の教育訓練に関する意見があった。

講習内容としては、「適切 79% (145名)」、 「不適切 1% (2名)」であった。コメントとし

表1 放射線安全取扱部会の活動について、興味があるテーマ (その他の自由記述)

- ・放射性同位元素 (RI) の利用について
- ・主任者の存在が一般社会で認知される運動
- ・低線量研究の現状と必要なこと
- ・福島案件
- ・除染
- ・電離則
- ・放射化物の管理 (2件)
- ・放射線教育 (2件)
- ・法令関係, 法令改正について (特に放射化物の管理について)
- ・新人主任者なので, 分かりやすいマニュアルがあると良い。
- ・定期検査, 立入検査等の最新動向 (原子力規制委へ移管後, どのように変わるか, 立ち入られた事業所の情報が欲しい)
- ・申請書の作成について。作成例があればありがたい。

て「主任者でない, 管理実務者向けの講習会はありませんか?」といった意見があり, 例年各支部が開催している「主任者研修会」の案内を充実させる必要があると思われる。そのほかに

施設見学会の開催を望む意見があった。

4-3 年次大会の持ち回り開催について

「良い 92% (169 名)」、「悪い 1% (2 名)」であった。

年次大会は、各支部が持ち回りで開催しているが、開催地の特色を十分に活かせるように研修会の内容等に様々な趣向が凝らされている。「各支部の方の心のこもった特色のある様子が感じられてありがたく思います」「気分転換になる」といった意見があった。その反面「会場での荷物預かりは用意してほしい」といった意見も見られた。また、交通の便を考慮する意見もあった。年次大会を開催するに当たり、このような意見も反映する必要があると思われる。

4-4 その他、部会の活動（支部の活動も含めて）について

「各部会ごとのディスカッションのようなのがあると、問題点について意見交換ができて良かった」といった意見があった。講演資料のデジタルデータの配布や放射線教育のネタとなるデータやスライドが参照できるようにしてほしい等の意見があった。

中には「市民講座の開催」や「学校への講義や実験を行う」など社会貢献に関する意見も見られた。コメントの中に「教育等を通じて社会に貢献したいと強く思うようになった」という意見があり、社会貢献を具体的にどのように行うかといった「行動」に関することも、今後の部会活動の重要な役割となる気がする。

終わりに

今回の年次大会は、瀬戸内海を渡り、愛媛県松山市での開催となりました。本大会にも多数の参加をいただき、またアンケートにもご協力いただき、御礼申し上げます。また十分に準備をしてきたつもりですが、アンケートには我々の配慮が足りない部分も指摘されていました。その点についてはお詫び申し上げます。

今大会でも、“放射線施設管理”に活かすことができるよう、有用な情報を参加者の皆様に提供するようにしました。年次大会の評価で、全体の評価が“3.9 点”と高い評価をいただき、またその他の講演、セッションでも高い評価をいただき、安堵しました。

部会名は“放射線安全取扱部会”に変わりました。これからも部会として有用な情報を発信するとともに、会員の皆様からの色々な意見を吸収し、更に発展していくことと思います。そのためにも“若い世代”や“女性”の方も積極的に参加していただき、色々な意見を出してもらうことが、部会の“活性化”につながると思います。多くの人が参加しやすい、あるいは参加したくなるよう、努力が必要と思います。

アンケートでは非常に有用なコメントをいただきました。皆様にいただいたご意見は次回大会実行委員会に引き継いでまいります。参加していただいた皆様に、大会実行委員会より御礼申し上げます。

(稲田晋宣)